

西川印刷のこと、 —すべてが生き物の表情無機質な物に生命を与える—

西川輝男氏との出会いは、日本青年会議所の会議である。その後、1975年にブラジルセミナーに、そして1980年には、西川印刷の工場の作業効率と労働環境の評価を、行動の追跡観察と、空気環境の測定で行い、人と物の共存する、生産職場の総合的なデータに基づき、合理化の提案とした。このコンサルティングの費用が税務署の検証となったが、内容についての話題が、税務調査を和らげることになったと、当時の西川一男社長が述べられたのが印象深い。1982年には、松栄ビルの建設には、オーナー側の、コンサルタントとして、設計会議に同席して、意見を述べる立場が与えられた。

その後西川さんとは1984年、オーストラリアのシドニー、キャンベラ、メルボルンを訪問して、現地の実状を視察して、印刷業の国外での可能性の検討資料とした。

その後、1993年クボタトレーン「オーナー向きカタログ」の作成にあたっては、その構成から印刷に当たっての、印刷のプロフェッショナルとしての知識や助言を得て、無事完成に至ることができた。

